

第 四 章 資 産 及 會 計

第 六 條 本會ノ資産ハ左ノ各號ノモノヨリ成ル但シ本會設立ノ日ニ

於ケル資産ハ別紙財産目錄ノ金拾萬四千圓トス

一 補助金及寄附金

ニ 其ノ他ノ贈收入

第 七 條 本會ノ基本財産ハ左ノ各號ノモノヨリ成ル

一 前條資産中ノ拾萬四千圓

ニ 基本財産ニ編入スヘキコトヲ指定シタル寄附ノ金銭及物件

三 評議員會ノ決議ニ依リ基本財産ニ編入シタルモノ

第 八 條 基本財産ハ其ノ元本ヲ消費スルコトヲ得ス

但シ特別ノ必要アルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ處分

スルコトヲ得

第 九 條 本會一切ノ經費ハ基本財産ヨリ生スル收入及基本財産以外

ノ資産ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條

本會ノ資産中少許若クハ短期ニ必要ヲ生スヘキ金錢以外ノ現金ノ管理ハ左ノ方法ニヨル

一 國債證券又ハ確實ナル有價證券買入

二 郵便官署又ハ確實ナル銀行若クハ信託會社ニ預入

三 評議員會ノ決議ヲ經テ不動産買入

第十一條

本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五章 役員

第十二條

本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名

副會長 三名以内

理事 若干名

監事 若干名

評議員 若干名

第十三條 會長ハ理事トシ評議員會ノ推薦ニ依ル

會長ハ會務ヲ統括シ本會ヲ代表ス

第十四條 副會長ハ理事中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル副會長之ヲ代理ス

第十五條 理事ハ評議員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

第十六條 理事中總務理事一名ヲ置キ會長之ヲ委嘱ス

總務理事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ專掌ス

第十七條 理事中常務理事若干名ヲ置キ會長之ヲ委嘱ス

常務理事ハ總務理事ヲ補佐シ常務ヲ處理ス

第十八條 監事ハ評議員會ノ互選ヲ以テ選任シ會長之ヲ委嘱ス

第十九條 評議員ハ會長之ヲ委嘱ス 但シ理事、監事、評議員ヲ現職

官吏中ヨリ委嘱スル場合ニ於テハ主務大臣ノ推薦ニ依ル

第二十條 役員ノ任期ハ二ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス補缺ニ依リ就

任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

官職ニ在ルノ故ヲ以テ役員タル者ノ任期ハ其ノ在職期間トス
役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ
行フモノトス

第二十一條 本會役員ハ常務者ノ外總テ名譽職トス

第六章 顧問、參與

第二十二條 本會ニ顧問、參與若干名ヲ置クコトヲ得

顧問、參與ハ會長之ヲ委嘱ス

第二十三條 顧問、參與ハ會長ノ諮問ニ應シ又ハ會長ノ要請ニ依リ理事

會、評議員會ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第七章 會議

第二十四條 會議ヲ分チテ理事會及評議員會トシ會長ヲ議長トス

第二十五條

理事會ハ必要ニ應シ會長之ヲ招集シ豫算、決算及事務執行ニ關スル主要事項ヲ審議ス

第二十六條

理事會ノ決議ハ理事三分ノ一以上出席シ出席理事二分ノ一以上ノ同意アルヲ要ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル但シ理事會ニ出席シ能ハサル者ハ書面ヲ以テ他ノ理事ニ委任シ表決ヲナスコトヲ得此ノ場合ハ之ヲ出席者ト看做ス

第二十七條

評議員會ハ會長之ヲ招集シ寄附行爲ニ定ムル事項ノ外會長ニ於テ重要ト認メタル事項ヲ審議ス

第二十六條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

寄附行爲ノ變更及基本財産ノ處分ハ出席評議員三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十八條

監事ハ理事會及評議員會ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

但シ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第八章 補則

第二十九條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經

テ別ニ之ヲ定ム

第三十條 本寄附行爲ノ條項ヲ變更セントスルトキハ主務官廳ノ許可

ヲ受クルヲ要ス

第九章 附則

第三十一條 本寄附行爲ハ主務官廳ノ許可アリタル日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本會ハ舊機械化兵器協會ノ事業經營上有スル會計一切ノ權

利義務ヲ繼承ス

第三十三條 本寄附行爲施行前ニ於ケル會員ハ機械化國防協會ノ會員タル

ルモノトス

第三十四條 本會設立ニ依ル最初ノ理事、監事、評議員住所氏名左ノ如シ

淀橋區下落合三丁目一、二四八番地

理事

會長

吉田 豊彦

陸軍大將

澁谷區神山町一九番地

理事 (總務)

副會長

河村 恭輔

陸軍中將

澁谷區永住町三八番地

副會長

理事

貴族院議員

土岐 章

子爵

澁町區澁町四丁目八番地

理事 (常務)

陸軍少將

三橋 濟

杉並區清水町六二番地

理事 (常務)

陸軍少將

湯淺 政雄

蒲田區古市町一七七番地

日本內燃機株式會社

代表取締役 又木 周 夫

監 事

龜町區丸之內一丁目二番地

株式會社日本製鋼所

取 締 役 中 島 三 郎

評 議 員

龜町區有樂町一丁目一一番地

池貝自動車製造株式會社

取 締 役 疋 田 善 太 郎

評 議 員

龜町區丸之內一丁目二番地

株式會社神戶製鋼所

東 京 事 務 所 楠 本 直 美

評 議 員

所 長

總町區有樂町一丁目一番地

日本工業會俱樂部

常務理事 狩野正夫

牛込區加賀町二丁目一番地

陸軍少將 長谷川正道

評議員

評議員

財團法人機械化國防協會大則

財団法人機械化國防協會々則

第一章 總 則

第一條 本會ノ會務ハ財団法人機械化國防協會寄附行爲第二十九條ニ依リ之ヲ定ム

第二章 會 員

第二條 本會ノ會員ヲ左ノ七種トス

一 名譽會員 特ニ本會ニ功勞アルモノニシテ理事會ニ於

テ推薦シタルモノ

二 有功會員 金壹萬圓以上ヲ一時ニ寄附シタルモノ

三 維持會員 本會維持ノ爲毎年左ノ金額ヲ寄附スルモノ

一ケ年 金千貳百圓

四 參與會員 毎年左ノ金額ヲ寄附スルモノ

一ケ年 金六百圓

六 特別會員

毎年左ノ金額ヲ寄附スルモノ

一ケ年 金百圓

但シ一時ニ金千圓以上ヲ寄附シタルモノハ

永久特別會員トス

六 贊助會員

金五拾圓以上ヲ一時ニ寄附シタルモノ

七 正會員

毎年金四圓ヲ寄附スルモノ

本條ノ會員ハ法人及團體又ハ私人トス

但シ贊助會員及正會員ハ私人トシ、學校ニアリテハ別

ニ之ヲ定ム

第三條

會員ハ本會主催ノ展覽會、映畫會、講演會其他機械化國防ノ宣傳ニ關スル會合ニ出席シ又本會發行ノ小冊子及機關誌等ノ頒布ヲ受クルモノトス

第四條

入會退會ハ會長之ヲ決シ理事會ニ報告スルモノトス

會員ニシテ本會ノ体面ヲ汚シ又ハ會則ニ違反シタル行爲アリタル時ハ評議員會ニ附議シ會長之ヲ除名ス

第三章 常務職員

第五條 本會ニ參事、主事、書記及雇員、備人若干名ヲ置ク事務ノ都合ニ依リ囑託員ヲ置クコトヲ得

第六條 參事及主事ハ總務理事ノ銜ニ依リ會長之ヲ任命シ書記及雇員、備人ハ總務理事之ヲ任命ス

第七條 參事及主事ハ上長ノ命ヲ受ケテ分擔事務ヲ處理ス 書記、雇員、備人ハ上長ノ命ヲ受ケ各其事務ニ服ス

第八條 參事其他ノ分擔事務ハ別ニ定ムル處ノ職務規程ニ依ル

第四章 理事會、評議員會及審議會

第九條 理事會及評議員會ハ年度開始前及終了後ニ於テ之ヲ招集シ尙必要ニ應ジ臨時招集スルコトアリ

第十條 理事會及評議員會ニ於ケル議事ノ願末ハ議事要録ニ登錄シ

會長及出席理事若クハ評議員二名以上之ニ署名捺印スベキ
モノトス

第十一條 本會ノ事業進行上特殊ノ事項ヲ研究スル爲メ會員中ヨリ委員ヲ選ビ審議會ヲ開ク但シ會長ハ必要ニ應ジ會員外ヨリ委員ヲ委屬スルコトヲ得

第十二條 審議會ハ會長之ヲ開催シ要スレバ委員中ヨリ議長ヲ選ブコトヲ得

第五章 會員章其他ノ表彰

第十三條 會員ニハ本會所定ノ會員章ヲ交付ス

第十四條 本協會ノ事業ニ功績アルモノニハ別ニ定ムル處ニ從ヒ感謝狀又ハ金品ヲ贈與ス

第六章 地方本部又ハ支部

第十五條 地方本部又ハ支部ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 資産、會計

第十六條 本會ノ資産ハ總務理事之ヲ管理保管スルモノトス

第十七條 本會ノ經費ハ基本財産收益收入、會員贈出金補助金、寄附金ヲ以テ支辨ス

第十八條 豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ追加豫算ヲ編成シ評議員會ノ決議ヲ經ルモノトス

第十九條 總務理事ハ毎年四月盡日迄ニ決算ヲ終了シ財産目錄、貸借對照表及收支計算書ヲ調製シテ會長ノ決議ヲ經タル後理事會ノ承認ヲ經テ監事ノ意見ヲ附シ五月盡日迄ニ評議員會ニ附議スルモノトス

第二十條 總務理事退任ノ際ニ於ケル資産ノ引繼ハ退任確定ノ日ヨリ

二週間に内ニ引繼明細書ヲ作成シ監事ノ立會ヲ受ケ之ヲ實施シ且資産及金銀物品ノ帳簿余白ニ引繼ノ記名捺印ヲ爲スモノトス

第二十一條 會計ヲ整理スル爲左ノ帳簿ヲ設クルモノトス

一 主要帳簿

總勘定元帳、仕譯帳、現金出納帳、預金出納帳、豫算簿

一 補助簿

必要ニ應ジ會長之ヲ定ム

第二十二條 會計ニ關スル帳簿ハ其帳簿閉鎖後證憑書類ハ當該年度経過

後十ヶ年間之ヲ保存スルモノトス

但シ主要帳簿ハ永久保存ス

附 則

本會則ハ財團法人機械化國防協會附行爲ノ主務官廳ヨリ許可アリタル日ヨリ施行ス

理事會議事錄拔萃

(昭和十五年一月十五日午後四時)

出席者

陸軍大將

吉田 豊彦 理事(會長)

陸軍中將

河村 恭輔 總務理事(副會長)

貴族院議員子爵

土 鼓 章 理事(副會長)

陸軍少將

三 橋 濟 常務理事

陸軍少將

湯 淺 政 雄 常務理事

陸軍省兵務局長陸軍少將

菅 晴 次 理事

東京帝國大學工學部教授

山 内 鎮 一 理事

陸軍中將

笹 本 菊 太郎 理事

日産自動車株式會社社長

村 上 正 輔 理事

東京帝國大學工學部助教授

隈 部 一 雄 理事

株式會社日本製鋼所社長

杉 政 人 理事

東京自動車工業株式會社社長

松 方 五 郎 理事

議 事

協會規約第二十二條第二項ニヨリ會長トナル

略

議 長

寄附行為ノ善議ニ當リ會議ノ進行上逐次奉命ニ善議スルコトヲ要求ス

略

議 長

第四章ヲ善議スルコトヲ宣シ

第四章 資産及會計

第六條

本會ノ資産ハ左ノ各號ノモノヨリ成ル但シ本會設立ノ日ニ於ケル資産ハ別紙財産目錄ノ金拾萬四千圓トス

一 補助金及寄附金

ニ其ノ他ノ諸收入

第七條

本會ノ基本財産ハ左ノ各號ノモノヨリ成ル

一 前條資産中ノ拾萬四千圓

ニ 基本財産ニ編入スベキコトヲ指定シタル寄附ノ金銭物件

三 評議員會ノ決議ニ依リ基本財産ニ編入シタルモノ

第八條

基本財産ハ其ノ元本ヲ消費スルコトヲ得ズ

但シ特別ノ必要アルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ處分
スルコトヲ得

第九條

本會一切ノ經費ハ基本財産ヨリ生ズル收入及基本財産以外
ノ資産ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條

本會ノ資産中少許若クハ短期ニ必要ヲ生ズベキ金額以外ノ
現金ノ管理ハ左ノ方法ニ依ル

一 國債證券又ハ確實ナル有價證券買入

ニ 郵便官署又ハ確實ナル銀行若クハ信託會社ニ預入

評議員會ノ決議ヲ經テ不動産買入

第十一條

本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日

ニ終ル

松方

異議ナシト答へ外一同賛成シ原案通り^満一致可決

略

議 長

以上ニテ寄附行爲並ニ會則ノ審議ハ原案通り可決スルコト、ナツタガ
今後監督官廳ニ申請シタル場合ニ大ナル問題ガアレバ理事會ニ圖ル豫
定デアルガ小ナル問題ニテ意味ニ變更ナキ時ハ會長ニ委セラレ度キコ
トヲ要求

松方

異議ナシト答へ一同賛成シ^満一致可決

以下 略

財 產 目 錄

昭和十五年二月三日現在

資 產 之 部

現 金	手 許 有 高	八 一 八、四 二
通 知 預 金	三 菱 銀 行 本 店 (財 團 法 人 基 金)	九 四、〇 〇 〇、〇 〇
定 期 預 金	同 右 (財 團 法 人 基 金)	一 〇、〇 〇 〇、〇 〇
當 座 預 金	同 右	一 四、〇 二 七、三 二
特 別 當 座 預 金	同 右	一 七、三 一 〇、六 八
振 替 貯 金	貯 金 局	一、三 一 一、〇 四
有 價 證 券	國 債 (機 關 發 行 保 證 金)	一、〇 〇 〇、〇 〇
數 金	東 日 館	八 一 〇、〇 〇
什 器	事 務 所 備 具	一、〇 〇 〇、〇 〇
合 計		一 四 〇、二 七 七、四 六

負債

負債之部

ナ
シ

差引純資産 一四〇、二七七、四六

機械化兵器協會

會長 吉田 豊彦

副會長兼
總務理事 河村 恭輔

常務理事 三 橋 濟

常務理事 湯 淺 政 雄

一金九萬四千圓也

謹

右ハ昭和拾五年貳月參日當店ニ於ケル貴會通知預金額高一相違無之候也

昭和拾五年貳月五日

株式會社

三菱銀行本店營業部

印

機械化兵務協會

御中

一金壹萬圓也

右八昭和拾五年貳月參日當店ニ於ケル貴會定期預金残高ニ相違無之候也

昭和拾五年貳月五日

株式會社

三菱銀行本店營業部

印

機械化兵隊協會

御中

取

一 金壹萬四千貳拾七圓貳拾貳錢

右八圓和拾五年貳月參日前店ニ於テ之貴會當座預金壹萬二千貳拾貳圓之數也

昭和拾五年貳月五日

株式會社

三菱銀行本店營業部

印

機械化兵隊協會

御中

股

一金壹萬七千參百拾圓六拾八錢

右八昭和拾五年貳月參日當店ニ於テル貴會特別當座預金現高ニ相違無之
候也

昭和拾五年貳月五日

株式
會社

三菱銀行本店營業部
印

機械化兵務協會

御中

財團法人機械化國防協會昭和十五年年度決算書

一、收入之部

會員寄附金

五一、六〇三、〇〇

雜收入

三、六三五、〇〇

機關誌贈收入

一、〇〇〇、〇〇

前年度繰越金

一三、七六二、〇〇

合計

七〇、〇〇〇、〇〇

二、支出之部

事務費

二〇、〇三〇、〇〇

事業費

二八、一五〇、〇〇

愛國機械化義勇團訓練費

八、五九三、〇〇

關西本部費

九、七七七、〇〇

豫備費

三、四五〇、〇〇

合計

七〇、〇〇〇、〇〇

收入之部

第一款 會員寄附金

五一、六〇三、〇〇

第一項 維持會員寄附金

二九、四〇〇、〇〇

第二項 參與會員寄附金

一三、八〇〇、〇〇

第三項 特別會員寄附金

七、〇〇〇、〇〇

第四項 贊助會員寄附金

九〇〇、〇〇

第五項 正會員寄附金

五〇三、〇〇

第二款 雜收入

三、六三五、〇〇

第一項 基本財產利子雜入

三、五〇〇、〇〇

第二項 國債利子雜入

三五、〇〇

機關誌保證金壹千
圓ノ利子

第三項 其他雜收入

一〇〇、〇〇

第三款 機關誌贈收入

一、〇〇〇、〇〇

第一項 機關誌贈收入

一、〇〇〇、〇〇

廣告收入

第四款 前年度繰越金

一三、七六二、〇〇

第一項 前年度繰越金

一三、七六二、〇〇

收入合計

七〇、〇〇〇、〇〇

支出之部

第一款 事務費

二〇、〇三〇、〇〇

第一項 給與

一四、一〇〇、〇〇

第二項 需用費

四、五三〇、〇〇

第三項 雜給雜費

一、四〇〇、〇〇

第二款 事業費

二八、一五〇、〇〇

第一項 機械化兵器知識普及費

一六、三〇〇、〇〇

第二項 協會懇話會費

一、六五〇、〇〇

第三項 浦支風察團派遣費

一、五〇〇、〇〇

第四項 研究會費

二、〇〇〇、〇〇

常務理事四名
主事三名、書記六名

第五項	機械化兵器工業相談事業費	二〇〇、〇〇〇
第六項	協會組織擴大及會員募集費	一、五〇〇、〇〇〇
第七項	調査研究費	三、三〇〇、〇〇〇
第八項	諸會議費	五〇〇、〇〇〇
第九項	旅費車馬費	一、二〇〇、〇〇〇
第三款	愛國機械化義勇團組織費	八、五九三、〇〇〇
第一項	組織費	三、五〇三、〇〇〇
第二項	訓練費	五、〇九〇、〇〇〇
第四款	關西本部費	九、七七七、〇〇〇
第一項	關西本部費	九、七七七、〇〇〇
第五款	豫備費	三、四五〇、〇〇〇
第一項	豫備費	三、四五〇、〇〇〇
支出合計		七〇、〇〇〇、〇〇〇

陸軍大將正三位勳一等功四級 吉田 豊彦

明治六年十二月一日生

出生地

大阪府泉北郡濱寺町字船尾七〇二番地

本籍地
現住所

東京市淀橋區下落合三丁目一、二四八番地

履 歴 ノ 概 要

一、明治二十七年九月十八日 任陸軍砲兵少尉

一、同 日 補要塞砲兵第一聯隊付

一、明治二十八年十月二日 補要塞砲兵第二聯隊第一大隊副官

一、明治三十年一月十一日 第六期生トシテ砲工學校へ入校ス

一、明治三十年十月二十五日 任陸軍砲兵中尉

一、明治三十年十月二十五日 補由良要塞砲兵聯隊付

一、同 年 十月三十一日 補由良要塞砲兵聯隊中隊長

- 一、明治三十二年八月七日 戰軍事研究トシテ獨逸國駐在被仰付
- 一、明治三十三年十一月十二日 任陸軍砲兵大尉
- 一、明治三十五年十月七日 補要塞砲兵射擊學校教官
- 一、明治三十六年一月十七日 陸軍砲兵會議御用掛被仰付
- 一、明治三十七年二月十三日 補要塞砲兵監部員
- 一、同 年 五月一日 補攻城砲兵司令部々員
- 一、明治三十八年一月十四日 補獨立重砲兵旅團司令部々員
- 一、明治三十八年三月一日 任陸軍砲兵少佐
- 一、同 年 三月十八日 補陸軍省副官兼補陸軍大臣秘書官
- 一、明治三十九年三月六日 補陸軍要塞砲兵射擊學校教官
- 一、同 年 七月二日 兼補海軍砲術練習所教官
- 一、明治四十年十月二十八日 補陸軍重砲兵射擊學校教導大隊長
- 一、明治四十二年六月五日 任陸軍砲兵中佐

一、明治四十三年六月十四日 補陸軍省兵器局長

一、明治四十四年一月二十六日 兼補陸軍省軍務局長 陸軍兵器本廠付

一、大正四年四月八日 補陸軍省兵器局長 兼砲隊長

一、大正四年八月十日 任陸軍砲兵大佐

一、大正七年六月六日 補陸軍省兵器局長 工政課長

一、大正八年一月二十一日 補陸軍重砲兵射擊學校長

一、同 年 七月二十五日 任陸軍少將

一、大正十年五月四日 補陸軍省兵器局長

一、大正十三年二月四日 任陸軍中將

一、同 日 補陸軍造兵廠長官

一、昭和三年三月八日 補陸軍技術本部長

一、昭和五年三月七日 任陸軍大將

一、昭和六年八月一日 待命被仰付

一、同 年 八月二十九日 豫備役被仰付

一、昭和十三年十二月一日 後備役被仰付

一、昭和十四年十二月一日 就任機械化兵器協會會長

昭和十五年二月 日

右之通り相違無之候也

右

吉田 豊彦

第九三號

十月十五日



調外第二〇四號

昭和十五年十月三日

日本赤十字社社長 公爵 徳川 圀

順 日本赤十字社

一、日赤より照会奉答の旨に付し

先電接受政府に傳達せん旨に電せし

二、右件に就て外務省より当省に連絡を乞ふ

思考ス

当課トシテ、解除不同意、付為念

軍務課 中

軍事課



報接受致候ニ付右寫

日本赤十字社

檢印

壹第 四ノ五〇



檢印係

陸軍省
陸軍部
第四〇五〇番

陸軍省
陸軍部
15.10.7
陸軍大臣

陸軍省
15.10.8
335
軍務課

陸軍省
15.10.7
陸軍部

調外第二〇四號

昭和十五年十月三日

日本赤十字社社長 公爵 德川 圀

日本赤十字社
陸軍省
陸軍部

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

拜啓 在壽府赤十字國際委員會ヨリ別紙ノ通電報接受致候ニ付右寫
(同假譯文添附) 及御送付候 敬具

日本赤十字社

十月十五日

Handwritten notes and stamps at the top of the page, including a circled '號' (number) and various illegible characters.



譯文

一九四〇年十月一日受

在ジユネーヴ

赤十字國際委員會

社
宛

中國紅十字會ヨリソノ患者輸送車及所屬材料車ニ必要ナル「ガソリン」ノ緬甸ヨリ支那ヘノ輸入禁絶解除ニ關スル交渉ヲ本委員會ニ依頼シ來レリ

右ニ關シ貴國政府ニ對スル御交渉ヲ懇請ス

日本赤十字社

COPIE

NLT CROIXROUGE JAPONAISE TOKYO

CROIXROUGE CHINOISE NOUS DEMANDE INTERVENTION POUR
OBTENIR LEVEE RESTRICTIONS A IMPORTATION BIRMANIE EN
CHINE ESSENCE NECESSAIRE SES AMBULANCES ET CONVOIS
STOP NOUS VOUS PRIONS INTERVENIR AUPRES GOUVERNEMENT
JAPONAIS INTERCROIXROUGE 7025

第 四 〇 號

保存期限
三年

決裁指定

決行指定

- 一、本紙ニ添附スヘキ書類
1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
 2. 病 歴 書 (流行病基因死没者ヲ余キ入院病死者ニ限ル)

大臣 委		受 領 番 號		政務大官 回付 決裁 前 連帶 課名	
局長 主務		起元應(課)名		決行(決裁)後 回覽課名	
次官 委		獨逸國立航空工業聯盟代表者、川崎航空機株式会社 昇學ノ件		陸 軍	
高級 副官		參與官			
主務 課長		書記官			
主務 課員		審案 筆記者			
防衛 局		工務 局		航空 局	
昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 六 日		昭 和 年 九 月 十 五 日	
昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日	
昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日	
昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日		昭 和 年 九 月 十 五 日	

刻官ヨリ川崎航空機工業株式会社社長宛
通牒(以下陸普)

独逸国立航空工業聯盟代表者「ドクトル、ゲル、
カウマン」ニ對シ九月十六日午前十時ヨリ「貴
社」發動機工場ノ見學ヲ許可セラレタルニ付
(可然取計ニ相煩度)

追テ見學事項ハ第三類ニ付為念申添ク

陸普第六四七八號 昭和十五年九月十五日

刻官ヨリ航空本部總務部長、憲兵司令部
本部長及海軍省刻官宛通牒

前同文

但シ「内ヲ「川崎航空機工業株式会社」ニ

(内ヲ「承知相成度」ニ作リ追書ヲ

削ル
陸普第六四七八號 昭和十五年九月十五日

一、本紙ニ添附スヘキ書類

- 1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
- 2. 病歴書 (流行病基因死没者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

陸軍

刻官多 独逸国立航空工業聯盟代表者

ドクトル、ゲール、カウマン宛回答

首題ノ件ニ関スル九月十二日附貴翰了承
右ハ御申越ノ通許可相成候條此段及回答
候也

陸普第六四七八號 昭和五年九月十五日



領省 壹第 四四九三



昭和十五年九月十二日

東京市麹町區丸の内三ノ三三菱廿一號館
獨逸國立航空工業聯盟
代表者 ドクトルゲイカウマン



陸軍省 御 中

工場 見 學 ノ 件 御 願

拜啓。小生左記ニヨリ貴國工場見學致度候ニ就テハ特別ノ御詮議ヲ以テ御許可
成被下度此段御願及候也

記

一、見學希望工場

川崎工場發動機部（神戸）

二、希望月日

昭和十五年九月十六日午前十時ヨリ

三、見學目的

- イ、日獨航空技術ノ提携ニ資スル爲
- ロ、全社トノ親善ヲ増進スル爲



閱

卷 四四九三

大監 經由第一五二號
昭和十五年九月六日

飛辰第七三八號

昭和十五年九月

陸軍本部 經由庶務第七五〇號
昭和十五年十月一日

陸軍大臣 東條英機 殿

獨逸國航空聯盟東京支部長カウマン博士
弊社發動機工場見學ノ件

拜啓昭和十五年九月十五日附陸普第六四七八號ヲ以テ弊發動機
工場見學方御許可有之候首題外國人ニ對シ別紙ノ通り見學誘導
仕リ候間此段及御届候

外國人工場參觀報告

三 通

陸軍部 15.1012 352 軍務課

以上



正 輔

陸軍本部

15.1012

卷 4493

9.17

受

七、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 丙 歴 書 (カシヤリヨリヒト...

外國人工場參觀報告

國 籍	氏 名	工 場 名	見學ノ目的	見學時間	体格及外 觀上ノ特徴	軍事能力ノ 程度並ニ特 有ノ技能及 性格ノ概要
獨 逸	後 記	川崎航空機工業株式會社 神 戸 工 場	神戶工場ニ於ケル一般工場見學	自午前十時三十分 至午前十一時三十分	長身ニシテ眼窩窪ミ顔長ク下 服裝ハ普通事務服	以前ユンカー入會社ノ外交係ヲナシ一九二八年一度日本ニ來朝セシコト アリ其後航空聯盟ニ入り前後ヲ通シ十回モ渡來セリ 經濟學博士ナルモ長ク航空機會社ニ就職セル爲メ幾分ノ技術的見識ハ有 シ居レリ非常ニ「セツカチ」ナル性質ナリ
經 歴	概 要	見 學 年 月 日		到 着 出 發		
	後 記	昭和十五年九月十六日				

見學中ニ於ケル舉動、着眼及一般ノ狀況	日本語修得ノ程度及對日感情	<p>弊社ニハ既ニ三回目ノ見學ナルモ今回ハ大部分空冷發動機部品ノミ流レ居リ其型式、性能ヲ聞キタキ様子ナルモ別項ノ如ク答辨シ置ケリ技術的質問ハナク只一般ニ見學セルモノニシテ特ニ必要箇所ヲ調査スルモノトハ見受ケラレズ不審ナル點ヲ認メズ</p> <p>長キ日本滞在ニ不拘日本語ハ單語ヲ並ベルニ過ギズ常ニ獨逸語ニテ應答セリ對日感情ニ對シテハ非常ニ好感ヲ有ス歐洲戰爭終了後ハ是非一層ノ技術的接近ヲ切望シ殊ニ獨逸トノミ取引セル弊社ニ對シ腹臟ナキ連絡ヲ頼ミ大ニ助力シタキト申シ居レリ</p> <p>應接室ニ於テ三十分、見學三十分、普通ノ雜談ニ殆ンド消費シ特記スルモノナシ</p>
其他參考ニナルベキ事項	モノナシ	

1. 本誌ニ添削スヘキ書牒
 2. 本誌ニ添削スヘキ書牒
 3. 本誌ニ添削スヘキ書牒
- (本誌ニ添削スヘキ書牒ニ關スル)

二、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (充了病歴用紙ニ記載スルモノニ限ル)

一、見學者 獨逸國 航空聯盟東京支部長

經濟學博士 ゲー・カウマン

二、監督官 陸軍航空兵大尉 森 本 長 男

三、見學誘導者 總務部長 山 崎 精

業務課長 官 島 久次郎

四、見學者行動及質疑應答

(イ)見學者ノ行動

カウマン博士ハ前夜獨逸總領事館ニ宿泊シ今朝十時弊社庶務掛員芳賀佐明總領事館ニ出迎、十六日午前十時三十分事務所着、階上應接室ニ誘導森本監督官、山崎、官島兩社員ト挨拶ノ後雜談ニ入ル

午前十一時ヨリ三十分間工場見學ノ後山崎社員同道神港ビル食堂ニテ晝食ノ後午後一時總領事館ニ送届ケタリ

(口) 質疑應答ノ概要

カウマン博士ハ山崎社員トハ舊知ノ間ニテ應接室ニテハ主トシテ今回ノ英獨戰爭ニ於ケル雜談ニ過シタリ

カウマン 今後川崎社ハ空冷發動機ヲ主トシテ製作スベキヤ水冷發動機ヲモ併用シテ製作スベキヤ

山崎 工場見學セラル、時ハ御承知ノ如ク目下空冷ヲ製作セルモ日本ニ於テハ我社ハ水冷發動機ノ製作ニハ一番經驗ヲ有シ居リ今後水冷發動機製作ヲ放棄スルコトハナシ今後一層此方面ニ躍進シタシ

カウマン ダイムラベッツ發動機ハ如何ニ目下製作段取セリヤ

山崎 目下製作段取ニ忙殺サレ居ル状態ナリ

カウマン 空冷發動機ハ何型、何馬力、回轉數ハ如何

山崎 御想像ニ御任セシ御返事出來難シ

カウマン 氣筒ニハ小型ト大型トアルガ何種類製作シアルヤ

註 録 書 (前記諸基因派好者ヲ謂テ人詞詠天答ニ題ス)
I 曰 録 本 一 版 (本人ヲウ事更ハ留録シマハ子ハニ題ス)

本誌ニ添テ寄ルヘキ書牒

二、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (充テ病歴ヨリ及テトモニ、シベリヤノ...)

山崎 詳細御説明出來難シ

カウマン 減速装置モアルガ何回轉ニ減速シアルヤ

山崎 特別ノモノニアラズ

カウマン 小型空冷發動機ハ三百又ハ三百五十馬力位カ練習機ニ使

用スルヤ

山崎 御想像ニ御任セス

山崎 「フォツケウルフ」ノ驅逐戰闘機ハ其後戰線ニ使用サレ

居ルヤ

カウマン 試作ノ域ヲ脱シタルモ「メツサーシユミット」ノモノヨ

リモ性能ヨロシカラズ

山崎 「メツサーシユミット」ノ一〇九型戰闘機ノ改良型ガ盛

ニ英國攻撃ニ使用サレ居ル様子ナルガ未ダ極秘カ

カウマン 目下一〇九型ハ製作中止シ改良型ノミナリ日本ニハ戰爭

終了後ハ直ニ輸出許可アルモノト思ハル現在ハ海上輸送

中英國ノ掠奪ヲ恐レ許可ナキモノナリ「シベリヤ」輸送

山崎

モ不可能ニテ目下ノ所如何トモ出来ズ
日本海軍註文ノ「ハインケル」大型爆撃機ハ既ニ完成セ
リヤ

カウマン

未ダ完成セザルモノト思フ

山崎

ドルニエノ二一七型爆撃機ハ日本ニ對シ許可アルヤ

カウマン

二一五型ハ許可アルモ目下戦争中ハ二一七型ハ不可能ナ
リ

カウマン

「ダイヤモンド」發動機ノ噴射ポンプノ製造權ヲ購入

山崎

スル意向ナルヤ多量ニ購入スル意ナルヤ

目下製作段取中ニ付何レ今後製作計畫立ちタル節ハ何分
ノ回答ヲナスベシ

カウマン

川崎招聘獨逸人技師ハ貴工場ニテ充分御役ニ立ち居ルヤ

山崎

非常ニ熱心ニ指導ヲ致シ居リ裨益スル所大ニシテ大ニ感
謝シ居レリ

以上

（前記森基因張野答ニ對シ入封録張答二期ハ）
（本人張野事更ハ張野ニマヒテハ二期ハ）

取添ニ添書スヘキ書牒

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病甚因死及皆ヲ余トシテ完結セシメシ)

（本紙ニ添付スヘキ書類ニ関シテハ本紙ニ添付スルコトヲ要ス）

外國人工場參觀報告

國籍	氏名	工場名	見學ノ目的	見學時間	体格及外觀上ノ特徴	軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要
獨逸	後記	川崎航空機工業株式會社 神戸工場	神戸工場ニ於ケル一般工場見學	自午前十時三十分 至午前十一時三十分	長身ニシテ眼窩窪ミ顔長ク下顎彎曲突出三日月形 服装ハ普通事務服	以前ユンカース會社ノ外交係ヲナシ一九二八年一度日本ニ來朝セシコトアリ其後航空聯盟ニ入り前後ヲ通シ十回モ渡來セリ 經濟學博士ナルモ長ク航空機會社ニ就職セル爲メ幾分ノ技術的見識ハ有シ居レリ非常ニ「セツカチ」ナル性質ナリ
經歷	概要	見學 年月日	昭和十五年九月十六日	到着 出發		
後記						

見學中ニ於ケル舉動、着眼及一般ノ狀況	弊社ニハ既ニ三四目ノ見學ナルモ今同ハ大部分空冷發動機部品ノミ流レ居リ其型式、性能ヲ聞キタキ様子ナルモ別項ノ如ク答辨シ置ケリ技術的質問ハナク只一般ニ見學セルモノニシテ特ニ必要箇所ヲ調査スルモノトハ見受ケラレズ不審ナル點ヲ認メズ
日本語修得ノ程度及對日感情	長キ日本滞在ニ不拘日本語ハ單語ヲ並ベルニ過ギズ常ニ獨逸語ニテ應答セリ對日感情ニ對シテハ非常ニ好感ヲ有ス歐洲戰爭終了後ハ是非一層ノ技術的接近ヲ切望シ殊ニ獨逸トノミ取引セル弊社ニ對シ腹藏ナキ連絡ヲ願ミ大ニ助力シタキト申シ居レリ
其他参考ニナルベキ事項	應接室ニ於テ三十分、見學三十分、普通ノ雜談ニ殆ンド消費シ特記スルモノナシ

- 1. 本誌ニ添削スヘキ書簡
- 2. 辭書 (前頁辭基因派發者モ斜キ入詞派發者ニ別ル)
- 3. 辭書 (本人派發者ノ請書ニテハ于ハニ別ル)

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死没者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

一見 學者 獨逸國 航空聯盟東京支部長

經濟學博式 ゲー・カウマン

二 監 督 官 陸軍航空兵大尉 森 本 長 男

三 見 學 誘 導 者 總務部長 山 崎 精

業務課長 官 島 久次郎

四 見 學 者 行 動 及 質 疑 應 答

(1) 見學者ノ行動

カウマン博士ハ前夜獨逸總領事館ニ宿泊シ今朝十時弊社庶務掛員芳賀佐明總領事館ニ出迎、十六日午前十時三十分事務所着、階上應接室ニ誘導森本監督官、山崎、官島兩社員ト挨拶ノ後雜談ニ入ル

午前十一時ヨリ三十分間工場見學ノ後山崎社員同道神港ビル食堂ニテ晝食ノ後午後一時總領事館ニ送届ケタリ

(四) 質疑應答ノ概要

カウマン博士ハ山崎社員トハ舊知ノ間ニテ應接室ニテハ主トシテ今回ノ英獨戰爭ニ於ケル雜談ニ過シタリ

カウマン 今後川崎社ハ空冷發動機ヲ主トシテ製作スベキヤ水冷發動機ヲモ併用シテ製作スベキヤ

山崎 工場見學セラル、時ハ御承知ノ如ク目下空冷ヲ製作セルモ日本ニ於テハ我社ハ水冷發動機ノ製作ニハ一番經驗ヲ有シ居リ今後水冷發動機製作ヲ放棄スルコトハナシ今後一層此方面ニ躍進シタシ

カウマン ダイムラベツツ發動機ハ如何ニ目下製作段取セリヤ

山崎 目下製作段取ニ忙殺サレ居ル状態ナリ

カウマン 空冷發動機ハ何型、何馬力、回轉數ハ如何

山崎 御想像ニ御任セシ御返事出來難シ

カウマン 氣筒ニハ小型ト大型トアルガ何種類製作シアルヤ

8 川崎重工業 (前記) 製造者

9 雜誌 書 (流音雜誌因派發者も細手入雜誌派發ニ別ル)

10 川崎社本一紙 (本人派上專更ノ品簿にてハ子ノニ別ル)

11 本誌ニ添附スヘキ書牒

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

山崎 詳細御説明出來難シ

カウマン 減速装置モアルガ何回轉ニ減速シアルヤ

山崎 特別ノモノニアラズ

カウマン 小型空冷發動機ハ三百又ハ三百五十馬力位カ練習機ニ使

用スルヤ

山崎 御想像ニ御任セス

山崎 「フオツケウルフ」ノ駆逐戦闘機ハ其後戦線ニ使用サレ

居ルヤ

カウマン 試作ノ域ヲ脱シタルモ「メツサーシユミツト」ノモノヨ

リモ性能ヨロシカラズ

山崎 「メツサーシユミツト」ノ一〇九型戦闘機ノ改良型ガ盛

ニ英國攻撃ニ使用サレ居ル様子ナルガ未ダ極秘カ

カウマン 目下一〇九型ハ製作中止シ改良型ノミナリ日本ニハ戦争

終了後ハ直ニ輸出許可アルモノト思ハル現在ハ海上輸送

中英國ノ掠奪ヲ恐レ許可ナキモノナリ「シベリヤ」輸送

山崎 モ不可能ニテ目下ノ所如何トモ出来ズ
日本海軍註文ノ「ハインケル」大型爆撃機ハ既ニ完成セ
リヤ

カウマン 未ダ完成セザルモノト思フ

山崎 ドルニエノ二一七型爆撃機ハ日本ニ對シ許可アルヤ
カウマン 二一五型ハ許可アルモ目下戰爭中ハ二一七型ハ不可能ナ
リ

カウマン 「ダイヤモンド」發動機ノ噴射ポンプノ製造權ヲ購入
スル意向ナルヤ多量ニ購入スル考ナルヤ

山崎 目下製作段取中ニ付何レ今後製作計畫立チタル節ハ何分
ノ回答ヲナスベシ

カウマン 川崎招聘獨逸人技師ハ貴工場ニテ充分御役ニ立チ居ルヤ


















山崎 非常ニ熱心ニ指導ヲ致シ居リ裨益スル所大ニシテ大ニ感
謝シ居レリ

以上

1. 本誌ニ添付スヘキ書牒
2. 辭書 (前記辭書因取替キ細キ人詞辭取替ニ期ス)
3. 辭書 (本人取替事更ハ信憑シマテハ于ヘニ期ス)

第 一 四 號

保存期限
 決裁指定
 執行指定

大 臣		政務次官		受領番		件名	
 大臣		 次官		航空許可ニ關スル件		老第四五九五号	
本部長 		部長 		高級副官 		起元應(課)名 金 永 久	
局長 		局長 		主務副官 		書記官 	
局長 		局長 		主務員 		審案者 	
局長 		局長 		主務員 		審案者 	

始年保

1. 本紙ニ添附スヘキ書類
2. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
3. 病歴書 (流行病基因死没者ヲ除キ入完病死者ニ限ル)

陸 軍

陸普

通牒

副官ヨリ出願人へ（銀海灣要塞司令部經由）

九月一日附出願首題ノ件許可セラレタルニ付軍機保護法施行規則

第十八條ニ依リ許可證ヲ交付ス

陸普第七三〇七號

昭和十五年十月十二日

第三三三號

許可證

朝鮮大邱府壽町三四番地

金 永 久

一、行 爲 空輸ノタメノ航空

一、區 域 福岡一蔚山一大邱

釜山一 大邱

一、本證有効期間

自昭和十五年九月四日
至同年同月十五日

- 1. 本證ニ添附スヘキ書牒
- 2. 申請書 (航空法基因取替手入詞取替ニ關ス)
- 3. 申請料本一紙 (本人取替ノ申請シマハ子ノニ關ス)

一、本證ニ添附スヘキ書牒

二、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死没者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

陸軍

一、條

件

1. 要塞地帶上空ノ航空ヲ禁ス

2. 本航空ニ當リテハ寫眞機、及眼鏡等ノ携行ヲ禁ス

且必要アルトキハ陸軍官憲ヲ搭乘セシメ若

ハ本條件ヲ變更シ又ハ本航空ヲ中止セシム

ムルコトアリ

昭和拾五年拾月拾貳日



鎮海灣要塞司令部經由

四五九五

航空許可願

本籍地朝鮮慶尚北道五德郡江口面三思洞

五一九番地

現任所大邱府青街三四番地

二等飛行機操縦士 仁王 永久

明治四十年十一月三日生

昭和十五年九月一日

陸軍大臣

殿

右記通り航空勅度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成

弋書士李其華事務所用紙

著取



度比隊及所願候也

記

一目的

空輸

六出飛地

福岡縣雁ノ巣福岡第一飛行場

出張時

昭和十五年九月四日午後四時

期間

自昭和十五年九月四日
至昭和十五年九月十五日

通過地

福岡第一飛行場 基吳 北野山飛行場

經由 土卸飛行場 着

四到着地及予定日時

土卸飛行場

昭和十五年九月五日

午後之時

釜山府水島町二二九番地(北釜山警察署前)

代書士 李

琪

華

電話三三三三三

右代書ス 料金 四 錢也

五、航空機ノ種類機体ノ型式 サルムソン式三ノ三型

七、国籍記録 J-BHDR

八、乗員ノ住所氏名並ニ乗員ノ技術証明及
免狀ノ種類

六、卸所場所 三四五番地 金永久

二、等飛行機操縦士技術証明書者
及三、等飛行機操縦士免狀

九、其他参考トナルハキ事項

ハ、高度ニ付ル 但シ北九州並朝鮮海峡ハ

五百米トス

(七) 幸ニ航空輸送機ノ航路ヲ通過ス
 (八) 天候不良場合ハ順延トス

右代書ス 料金 四二〇錢也

釜山府水品町二二九番地(北釜山警察署前)

代書士 李 華

電話三三三三番

池谷元成

航空許可願

本籍地朝鮮慶尚北道五通總郡江口洞三思洞

五一九番地

現住所 大邱府東所三四番地

二等飛行機操縦士 金永久

昭和四十年十一月三日生

昭和拾五年九月 四日

陸軍大臣 殿

左記通り航空許可度軍機保護法施行規則第五條、規定之依り許可相成度

比解不沛一酌係也

記

一目的 一、釜山府江所埋立一號地之不時着

也儿機性、大卸、之空輸、考、

二出養地 釜山府江所埋立一號地

出養日時

昭和十五年九月十二日午後五時

期間

自昭和十五年九月十二日午後五時
至昭和十五年九月十二日午後六時

三通過地

四到着地及予定日時

大卸飛、行場昭和十五年

九月十二日午後 時

釜山府水島町三二九番地(北釜山警察署前)

代書士 李

琪

華

電話三三三三番

右代書ス 料金

四

錢也

五、飛空機ノ種類機件型式
ガムソン式二六三型

七、国籍記録
J-BHDR

八、乗員ノ住所氏名並ニ乗員ノ技術證明書

免狀ノ種類

大卸前券別三四五番地
金永久

二等飛行機操縦士技術證明書

子二等飛行機操縦士免狀

九、其他参考号トナル事項

一九三三年三月三日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

右代書ノ料金 圓ノ〇錢也

釜山府水晶町二二九番地(北釜山警察署前)

代書士 李

電話三三三三番

池田元成



航空事故報告

本籍地 朝鮮慶尚北道 江口面

三思洞 五一九番地

現住所 大邱府壽所 三四番地

二等飛行機操縦士

金 永久



明治卅一年十一月三日生

陸軍大臣

殿

私儀

天候不良、為進路、誤り、鎮海、
湾要塞地帯、第13号外、第31

五箇箇内内々々慶尚南道釜山府内
一所埋立一跡地之不時着有数候子の故
一林况龙記一通り報告候也

記

不時着有、日時場所

昭和十五年九月四日二〇、三〇

慶尚南道釜山府内一所埋立一跡地

(鎮海考要案地帯第三区外牙

三十五百箇内)

不時着有候、右稱並録記號

釜山府水島町二二九番地(北釜山警察署前)

代書士 李

琪

華

電話三三三三番

右代書ス 料金 四 錢也

ガムソンニアニ型 T-BHDK

三不時着ノ概要

帝國飛行協會朝鮮地方本部拂
下ノガムソンニアニ型ヲ單身操縦
シ福岡ヨリ土卸飛行場ニ至リテハ
陸軍省ノ許可ヲ福岡土卸間定期
旅客機脱陸ノ飛行ヲ得九月四日
午後四時福岡飛行場ヨリ出立
一時向経途彼天候悪化濃霧
籠来ルニ且東北風烈化雷雨トナ

り数回之互うし米乃至三百米ノ
高低飛行し了るは密着云々至域ヲ
脱出せんと欲しんを以て又視界
ノ米ナリ加ふる風速十五米ノ如ク
機体ノ動揺甚しく羅針ノ盤ニ依り
進路確定不能ノ状態ヲ陷り午
五時之至んを尚も陸地ヲ発見見ん
不能ハナリし為し或ハたナリ機首ヲ
転るん之に於て陸地ヲ発見可能ナラスヤ
ト思料シたナリ之進路ヲ取りけん結果

右代書ス 料金 四 錢也

釜山府水前町二二九番地（北釜山警察署前）

代書士 李

琪

電話三三三三三



午後七時五十分 釜山港口五之島
 燈台より發見せんが早直線、二一
 三取、九二台ハ時五十分釜山府上空
 二飛来、一五〇米、低空飛行、釜山
 市街、確認シ、九二が早直線、不時
 着有、注意シ、着陸場探定、高木
 釜山山上空、三回旋回、上同、三十分前
 記地、五二、着陸、又
 三番目

不時着、卜同時、釜山、釜山、釜山、釜山

一 代書士 事務所

其の者有出る為に其の指しあり仰

々ー)

昭和十五年九月四日

右代書士 料金 四〇〇錢也

釜山府水島町二二九番地(北釜山警察署前)

代書士 事務所

電話三三三三番

池田元成



2. 丙 陸 軍 (元子) 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

釜山憲警第二二七二號

意 見 書

本籍 慶尚北道 亞德郡 江口面 三思洞 五一九番地
住所 慶尚北道 大邱府 壽町 三四番地

二等飛行機操縦士 金井永久 (旧名 金永久)

當三十三年

右者別紙ノ通り軍機保護法施行規則
第五條ニ基キ航空許可願出アリタ
ルニ付調査ニタルニ左記ノ通りニ
シテ許可相成可然モノト思料ス

左記

一 願書記載ノ項目ニ對スル意見
願書記載通り 帝國飛行協會 朝鮮
地方本部 拂下機 (サルムソニレ) = A = 型



鎮海灣
15.9.14
要案司令部

ヲ釜山港埋立第一號地（鎮海灣要塞
地帶第三区外方三千五百間内）ヨリ
大邱飛行場ニ空輸ノ爲ナル事實相違
ナキモノト認ム

ニ本人ノ身元及之ニ對スル意見

願出人ハ大正十五年三月私立嶠南中
等學校卒業以來昭和十三年二月二十
六日ノ長年ニ亘リ遂ニ宿望ノ飛行
士トナリタル者ニシテ爾來現任地ニ
在ツテ朝鮮航空思想普及ニ努メ
ツハアリテ素行良行思想堅實ニ
シテ總督府遞信局關係者及一
般ノ信用篤ク身元確實ナリ

三其他ノ意見

三 諫 書 (前記諫書因張野君ヲ刺キ入諫書張野君ニ廻ル)

要塞地帯内(三區外方三千五百間内)ヨリノ
離陸ナルヲ以テ要塞施設ノ軍機保
護上要スレハ要塞司令部將校同乘
本人ノ舉動ヲ監視スルノ要アリト思
料ス

昭和拾五年九月拾貳日

陸軍大臣 陸山憲兵分隊長 中安雄

陸軍大臣

殿



第 四 二 號

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (病子母等ニ限リ)

拾年保

(第一〇六二號次官通牒参照ノコト)

陸 軍

大臣		大 委		件 名 映 畫 製 作 資 料 貸 與 ノ 件	番 號 吉 第 四 九 〇 五 號	政務次官 同付 決裁 後 前 連 帶 課 名 鏡 砲 衣 糧	起元廳(課)名 東 京 發 聲 映 画 株 式 會 社	決行(決裁)後 回覽課名		
局長	主務局長	次官	政務次官						參與官	書記官
局長	主務局長	高級副官	主務副官						主務副官	審 案 筆 記 者
大臣	大臣 委	局長	主務局長	參與官	書記官	審 案 筆 記 者	審 案 筆 記 者			
房官大臣	課 局 務 主	帶 連		參 與 官	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
了 結	領 受	出 提	領 受	主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
年	年	年	年	主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
十 月	十 月	十 月	十 月	主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
十 六 日	十 六 日	十 一 日	十 五 日	主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		
新 案 第 一 八 八 號		昭 和 十 五 年 十 月 十 一 日		主 務 局 長	番 號	政 務 次 官		決 行 (決 裁) 後		

陸普 副官ヨリ 東京發聲映画株式會社代表 重宗和伸へ通牒

十月五日附 當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ通牒紙ノ通り許可セラ

レタルニ付承知セラレ度

追テ所妥經費並貸與品保管ノ責ハ貴方ノ負擔ニ付申添フ

陸普第七三〇六號

昭和五年十月十二日

陸普 副官ヨリ 兵器本部總務部長 被服本廠長へ通牒

映画「大地に祈る」

製作ノ爲別紙ノ通り

東京發聲映画株式會社代表 重宗和伸

へ貸與方取計ハレ度依命通牒ス

追テ所妥經費並貸與品保管ノ責ハ借用者ノ負擔ニ付申添フ

陸普第七三〇六號

昭和五年十月十二日



陸普 副官ヨリ 東京發聲映画株式會社代表 重宗和伸へ通牒
十月五日附 當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ通牒紙ノ通り許可セラ
レタルニ付承知セラレ度
追テ所妥經費並貸與品保管ノ責ハ貴方ノ負擔ニ付申添フ
陸普第七三〇六號
昭和五年十月十二日
製作ノ爲別紙ノ通り
東京發聲映画株式會社代表 重宗和伸
へ貸與方取計ハレ度依命通牒ス
追テ所妥經費並貸與品保管ノ責ハ借用者ノ負擔ニ付申添フ
陸普第七三〇六號
昭和五年十月十二日

陸軍

兵器貸與品目員數表

貸與部隊 陸軍兵器本部

被貸與者 東京發聲映畫株式會社

品目	員數
三十八式步兵銃	四〇
三十年式銃劍	四〇
十一年式輕機關銃	三
圓匙	四〇
軍刀(乙)帶革共	三
拳銃(囊ノミ)	三

備考

一 貸與期間 自昭和十五年十一月三十五日

一 古品ヲ充當スルモノトス

但シ空包射撃ハセザルモノトス

六、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戶籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 丙 歴 書 (施行時ニ付シテ)

被服貸與品目員數表

貸與部隊 陸軍被服廠

被貸與者 東京發聲映畫株式會社

陸軍

備考	品目		員數	
	品目	員數	品目	員數
	夏衣袴	八〇	鐵帽	四〇
	略帽	八〇	水筒	四〇
	彌上靴	八〇	雜囊	四〇
	卷脚絆	八〇	背囊	四〇
	携帶天幕	四〇	標章	八〇
	防毒面携帶袋	四〇	飯盒	四〇
	(下士官用皮革製)	三	雨外套	四〇
	夏襦袢袴下	二〇	肩章	八〇

情報

東京發聲映画株式會社

陸軍 昭和 15.10.9 大官臣

陸軍 昭和 15.10.9 情報

兵器並被服借用許下願

東京市世田谷区世田谷四丁目三百九拾壹番地
東京發聲映画株式會社

代表者 重宗和伸

重宗

陸軍大臣東條英機閣下

今敝小社ニ於テ、戦線直後ノ病院生活ニ取材シ、軍衛生機關ノ活動ト衛生部員、特ニ從軍看護婦ノ努力、並ニ傷病將士ガ再起ヲ期シテ療養ニ努メ、遂ニ原隊復歸ヲナスニ至ル情景ヲ描寫シタル映画「大地に祈る」ヲ製作スルニ當リ右映画中使用ノタメ武器並ニ被服其ノ他ノ御貸與方ヲ御願致度存候ニ付テハ何卒御詮議ノ上御許可相成度別紙種目員數表相添ヘ奉願上候也

昭和十五年十月五日

種目並算數表

借用期間 自昭和十五年十月十五日

至 十一月三十日

夏軍服（上衣、袴）

八〇

靴開襟

八〇

軍靴

八〇

卷脚絆

八〇

鉄甲（傳裝網ヲ含ム）

四〇

歩兵銃

四〇

帶劍

四〇

帶革（茶金付）

四〇

水筒

四〇

肩章	袴下	袴絆	拳銃 (革袋)	田囊 (下士官用皮革製)	輕機關銃	軍刀 (下士官用)	被甲 (袋)	天幕 (附蛋品附)	田起	背囊 (及附蛋品)	雜囊
△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	△ ○

襟章

八〇

(内訳) 下士官 一〇、上等兵 一〇、一等兵 四〇、

二等兵 二〇、)

飯盒

四〇

防雨外套

四〇

携帶水筒

四〇

第四三番

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定



政務次官回付
參與官回付
決裁前一連帶
後一課名

拾年保

決行(決裁)後
回覽課名

受番
領號

壹第四九五ノ部

起元廳(課)名

主婦之友社

靖國神社の歌「陸軍省選定名義使用ニ関スル件」

大臣
委

次官

委

政務次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

高級副官

主務副官
官房御用掛
計掛

主務局長

新審第八七號

昭和三十五年十月十一日

昭和三十五年十月十一日

昭和三十五年十月十六日

昭和三十五年十月十六日

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

連帶

局長

長課



陸普 副官ヨリ 主婦之友社社長石川武美へ通牒

十月二日附當省大臣宛願出ニ依ル首題ノ件許可
セラレタルニ付承知相成度

陸普第七三〇四號

昭和十一年十月十二日



陸軍省

四九五七

昭和十五年十月二日



「靖國神社の歌」ニツキ選定名義下附願

主婦之友社募集帝國軍樂隊作曲導領歌「靖國神社の歌」ニツキ陸軍省選定名義御下附相成度此段及御願出候也

東京市神田區區役所二丁目六番地

主婦之友社

川武



陸軍大臣

東條英機 殿

第四四號



執行指定



決裁指定

三年

保存期限

政務大
參與官
同付
拾年保
決裁前
後連帶
課名

決行(決裁)後
回覽課名

受領番號
壹第四九五八號
件名
展覽會資料貸與ノ件

起元應(課)名
高島屋大阪支店

大臣
委

次官

委

高級副官



主務副官
官房御用掛



政務次官

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長



主務課長



主務課員



番號
新審第一八六號

主務局長
受領
昭和十五年十月十一日

提出
昭和十五年十月十一日

大臣受領
昭和十五年十月十一日

大臣官房
了結
昭和十五年十月十六日

連帶

局長

局長

課長

課長

主務局長

陸書 副官ヨリ高島屋大阪支店取締役支配人大谷友之進へ通牒
九月二十七日附當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ件別紙ノ通り資料貸與
方許可セラレタルニ付承知相成度

ノ負擔ニ付申添フ

八月十日附 三行相成度

昭和五年十月八日

陸書 副官ヨリ遊就館長へ通牒

左記展覽會ニ對シ別紙ノ通り資料貸與方許可セラレタルニ付通牒ス
追テ所要經費並ニ貸與品保管ノ責ハ主催者ノ負擔トス

左記

一名稱	佐久間象山先生展覽會
一會期	自十月八日 至十月十五日

陸普

副官ヨリ高島屋大阪支店取締役支配人大谷友之進へ通牒
九月二十七日附當省大臣宛願出ニ係ル首題ノ件別紙ノ通り資料貸與
方許可セラレタルニ付承知相成度

追テ所要經費並貸與品保管ノ責ハ貴方ノ負擔ニ付申添フ

陸普第七三〇三號

昭和五年十月八日

一

陸普

副官ヨリ遊就館長へ通牒

左記展覽會ニ對シ別紙ノ通り資料貸與方許可セラレタルニ付通牒ス
追テ所要經費並ニ貸與品保管ノ責ハ主催者ノ負擔トス

左記

一名稱 佐久間象山先生展覽會

一會期 自十月八日 至十月十五日

陸軍

一會場 高島屋大阪支店

一主催 高島屋大阪支店

陸普第七三〇三號

昭和十五年十月八日



陸軍

大改高島屋佐久間象山先生遺品展覽會貸出品目表

五月十八日

遊就館

遊就館

一 佐久間象山先生嚴學回編

一 十三摺白砲

一 スノ儿卜歩兵銃

以上

昭和十五年九月二十七日

大阪市南區難波新地六番町十四番地

會社高島屋大阪支店

支店支配人

大谷友之進



陸軍大臣

東條英機閣下



遊就館御所藏品拜借御願の件

今般十月八日より十三日まで當店に於て科學の先覺者佐久間象山先生展覽會開催致し先生の卓見博識の偉業を顯揚せん爲貴館御所藏の資料特別御貸下の榮を賜り開催趣旨の目的を充分に達成致し度き存念に有之候何卒格別の御詮議を以て御許可賜り度此段御願申上候

保存期限 十年
 決裁指定 局長
 決行指定 原

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戶籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
 2. 病 歴 書 (死時精進ノ書)

拾年保

陸 軍

受領 番號
 大官 同付
 決裁 前後
 連帶 職名

起元廳(課)名
 決行(決裁)後
 回覽課名

壹伍五〇八號

東和汽船株式會社

外國船舶不開港出入ニ係ル寄港地變更ニ関スル件

大臣 委

委

高級 副官

主務副官
 官房御用掛
 主務課員

政務 次官

參與官

書記官

審案 筆記者

主務 局長

主務 課長

主務課員

主務局 防衛甲第四五九號
 受領 昭和十五年十月九日
 提出 昭和十五年十月十四日

連帶 局長

長課

大官 昭和三十四年十月十四日
 了結 昭和三十四年十月十四日

決行(決裁)後
 回覽 局長

長課

原

原

原

原

原

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒(麴町憲兵分隊經由)

十月七日附出願ニ係ル外國船天利號寄港地變更(沖繩縣沖大東島ヲ同縣北大東島ニ)ノ件左記條件ニテ許

丁セラレタルニ付依命通牒ス

本日中ニ決行相煩度

附陸普第七一二一號ニ添附シ置

條件

一、必要ニ應ジ官憲ヲシテ船内ノ檢索、容疑物件ノ封印ヲ爲サシムル事アリ

陸普第七三三〇號 昭和五年十月十四日



堀

陸普書 (旅行証基因取返答ヲ糾キ入詞証取答ニ廻ル)

I 日餘本一紙 (本人取寸事更ハ請願シマハ于ハニ廻ル)

本添ニ添付スヘキ書牒

一〇二二番七官長執照ノ付

陸普

副官ヨリ出願人へ通牒(麹町憲兵分隊經由)

十月七日附出願ニ係ル外國船天利號寄港地變更(沖繩縣沖大東島ヲ同縣北大東島ニ)ノ件左記條件ニテ許可セラレタルニ付依命通牒ス

追テ本通牒ハ十月五日附陸普第七一三二號ニ添付シ置カレ度

條件

一、必要ニ應レ官憲ヲシテ船内ノ檢索、容疑物件ノ封印ヲ爲サシムル事アリ

陸普第七三三〇號 昭和七年十月十四日



課 書 (旅行課基因取致答ヲ斜キ入調課取答ニ廻ル)
I. 日 録 本 一 冊 (本人取付事取付信簿ニテハ于ハニ廻ル)

本 冊 二 添 付 ス へ 手 書 職

昭和七年十月十四日

一、本紙ニ添附スヘキ書類

- 1. 戶籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
- 2. 丙 歴 書 (危子局甚司臣及子ト名ニシテ言フニシテ)

麹町憲警第二二九〇號

意見書

昭和十五年十月八日 麹町憲兵分隊長平林茂樹

麹町憲兵分隊長印

陸軍大臣 東條英機 殿

東京市日本橋區兜町一八
東和汽船株式會社東京支店

松井 四郎

右者別紙ノ通り軍機保護法施行規則第
廿一條ニ基キ寄港地變更許可ヲ願出スルニ付許
可可然キモノト思料ス



陸軍第五〇八

寄港地変更許可願

昭和十五年十月七日

東京市日本橋區兜町二八

東和汽船株式會社東京支店

支店長 松井四郎

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年九月二十七日付許可申請昭和十五年十月五日付
陸普漢七、一、二一號ヲ以テ不用港出入ニ関スル申請許可相成ル
處 荷主ノ都合ニ依リ左記ノ通寄港地変更致シ府中許可
お尋交軍機保護法施行規則第十六條ノ規定ニ依リ

